

同窓会だより

平成19年度第1回歯学部教授会・同窓会定期協議会開催

18期 渉外担当理事 飯田明彦

標記会議の議事要旨を以下に記します。

日 時：平成19年8月23日(木) 午後7時から

場 所：「和幸」西堀通3

出席者：(教授会) 前田学部長、齊藤(力)副病院長
：(同窓会) 多和田会長、佐藤副会長、
野村副会長、宮野副会長、鈴木副会長、
成田専務理事、飯田渉外担当理事

はじめに、多和田会長から新学部長、新副病院長の就任にあたり、今後とも、大学と同窓会がより良い関係を維持できるようご協力を賜りたいとの挨拶があった。

前田学部長報告

詳細な資料をご用意いただき、それをもとに(1)新執行部の人事、(2)歯科医師国家試験結果、(3)新しい職制について、(4)新任、昇任教員の紹介、(5)転出教員、(6)全学における歯学部の占める位置、(7)平成20年度概算要求、(8)平成19年度予算にかかる新規購入機器、(9)取り組むべき課題などについて報告があった。

特に(6)の全学における歯学部の占める位置に関しては、科学研究費補助金の申請、採択率、採択金額などで好調であること、(7)の概算要求に関しては日本で初めて口腔生命福祉学専攻の大学院が設置されること、また、「口腔からQOLの向上を目指す連携研究」の主管になることが報告された。

今後取り組むべき課題として①教員定員削減による教育研究分野の再編、②大学院修士課程の設置、ならびに設置に伴う歯学系研究科の整備・充実、③実習設備更新を念頭に置いた歯学教育改革

のさらなる推進、④科学研究費やGP推進経費などの外部資金獲得額の向上、⑤歯学部校舎の大型改修、⑥教育、研究、管理業務などの偏在化の解消、⑦時限的教員の配置などについて、わかりやすい説明が行われた。

齊藤(力)副病院長報告

新潟大学医歯学総合病院の稼働率は全国1位であり、歯科単独の稼働率も全国2～3位を維持している。患者紹介率は48%と高く、今後も同窓の先生方にはご協力を賜りたい。病院統合に関しては、ベッドの貸借、救急体制のシステム化などが行われ、メリットがデメリットを上回っているように感じる。今後の構想としては医歯学総合病院に救急救命センターが開設されること、魚沼基幹病院に歯科が設置され新潟大学から人材を派遣することが決定している。また、魚沼基幹病院の研修医の受け入れについては今後の検討課題であることが報告された。

今後は、収入の面では医科におよばないところもあるが教育面での実績を強調し歯科の立場を保っていく。外来診療棟の建設に当たっては、歯科診療には大きな面積が必要であることを強調し、診療スペースを確保していきたい。また、オープンホスピタルなど同窓の先生方と協力した診療体制を構築していきたいとの構想が説明された。

議題について

1. 同窓会総会の日程について

同窓会総会は決算の関係などから、4月の第3土曜日が望ましい。本年度は解剖体祭と重なり日程調整が困難であったことから、今後の見通しについて同窓会側から前田学部長に質問を行った。その結果、解剖体祭は4月の第2土曜日を中心に行われること、解剖体祭は歯学会の日程にそれほど大きな影響を及ぼさないことが説明され、同窓



会総会の日程に関しては歯学会の庶務幹事と相談することで対応することとなった。

2. 学生の国家試験対策について

学生が国家試験勉強をする際に大学として対策を講じてほしい旨要請した。これに対し前田学部長から、業者に講師を依頼すると多額の費用が発生するため、大学としては施設を貸与する、各講座から試験対策の窓口になるような教員を選出するなどの対策を検討している旨説明があった。

3. 同窓会からの学生表彰制度について

同窓会から勉学優秀な学生などを対象にした表彰制度を設置したい旨提案した。これに対し前田学部長から、勉学や人命救助などに関しては学部長表彰の制度があるので、部活動などなかなか表に出ない分野の表彰を検討してほしいと回答があった。

会は終始なごやかな雰囲気の中、時事問題やOBの近況に関することなどにも話がおよび、有意義な時間が流れた。今後も同窓会と大学が良い関係を継続できるよう協力することが確認され、齊藤教授の挨拶で閉会した。

歯学科6年生、口腔生命福祉学科4年生と同窓会との交流会

27期 渉外担当理事 多部田 康 一

11月2日(金)に「歯学科6年生、口腔生命福祉学科4年生と同窓会との交流会」が歯学部大会議室で開催されました。歯学科6年生から42名、口腔生命福祉学科から26名と多数の学生に参加いただきました。口腔生命福祉学科においては、来春初めての卒業生が送り出されるということで、本年度より口腔生命福祉学科4年生にも交流会へ参加していただくことになりその人数からも大変賑やかなものとなりました。同窓会側からは多和田会長、佐藤副会長、宮野副会長、鈴木副会長、成田専務理事を始めとしてその他学内外理事8名の先生方に参加いただきました。

鈴木副会長の司会進行により会は始まり、多和田会長よりのご挨拶においては、以前より厳しくなっている歯科界の現状においては、自分の目標をしっかりと決めてそれに向けて決断を行っていく





と良い、また特に口腔生命福祉学科の学生においては是非この先に続いていく卒業生のためにも積極的に頑張っただけという趣旨で激励をいただきました。成田専務理事よりの新潟大学歯学部同窓会の事業・活動内容についての説明のあと、宮野副会長より乾杯の御発声をいただき、アルコールとともに会は和んでゆきました。また、会の途中においては野内先生（20期生）より開業医としての日常について、症例等含めての講演をしていただきました。

以前6年生が就職先を探す夏休み前に行われていた交流会ですが、研修医の必修化後、進路相談・アドバイスといったことが具体的に難しいことから、本年は歯学科6年生の臨床実習の終了に合わせて開催されました。趣旨としては本学歯学部同窓生として歯学部同窓会の活動について理解していただき今後同窓会を歯学科、口腔生命福祉学科共に協力してより盛り上げて頂くお願いになったかと思えます。学部卒業後、県外の大学や機関にて研修を受けるか、就職する学生も多くおり、本学で研修を受けるとしてもなかなか同窓会と接する機会も無いことから、将来同窓会の一員として協力いただく学生とこのような機会を設けることにより、同窓会の活動について理解をしていただくことはとても意義のあることと考えられました。

第54回全国歯科大学同窓・校友会懇話会報告

副会長 宮野正美

日時：平成19年10月27日(土) 午後2時
場所：九州大学医学部百年講堂大ホール

第54回全国歯科大学同窓・校友会懇話会（全歯懇）が、平成19年10月27日(土)に九州大学歯学部同窓会の主催により開催されました。多和田会長、佐藤副会長と私の3名で出席しましたので、ご報告致します。

懇話会冒頭の来賓挨拶の中で、先の参議院選挙で初当選された石井みどり参議院議員より選挙応援に対する謝辞と国会活動報告がなされた。全国の歯科医師の代表として今後の活躍が期待される所である。

今回のテーマは「若い歯科医師に今、何を伝えたら良いか」と言うことで、事前アンケートが取られていた。(アンケート結果抜粋)

1. 若い先生に一番伝えたいもの：医療人としての自覚や使命感、歯科医療の重要性・すばらしさ、夢と希望を持って努力すること、同窓会への帰属意識を持つこと、政治力をもつこと等。
2. 若い歯科医師について：よく勉強している8校、やる気が感じられる11校、やる気が感じられない4校、失礼な態度が多い2校
3. 若い先生達の熱意はどうか：非常に前向きで積極的12校、やる気はあるが空回り状態10校、あまり熱心ではない5校
4. 将来について若い先生達はどう思っていると思うか：非常に暗いと悲観1校、非常に暗いが頑張りたい19校、歯科の将来は明るい9校
5. 若い先生の同窓会離れに対する対策は：会費前納、同窓会ゴールドカード発行、進路相談会、学生組織・諸行事への支援、奨学金、卒後3年学術講演会無料、支部・県人会との交流等

シンポジウムでは宮地建夫先生は国民（社会）の健康観と歯科医療提供側の健康観とのギャップ





を指摘し、患者様から学ぶ姿勢の重要性を説かれた。又、北川原建先生は国民の視点にたった医療システム、医療経済の構築の必要性を述べられた。今回のテーマに関してのパネラーの講演は、若い先生や学生の方には有意義なものではあったが、同窓会活動と直接的にはかみ合わないこともあり、会場からの発言が少なく盛り上がりを欠いたことは残念なことであった。

協議では、次々回当番校に九州歯科大学同窓会が選出された。又、鶴見大学歯学部、神奈川歯科大学より会員の選挙応援に対する謝辞が述べられ、奥羽大学歯学部から平成20年度開催の30周年事業予定が紹介された。

懇親会終了後、福岡県代表幹事である波多野達郎先生（18期生）と懇談することができました。新潟の近況や遠方から見た同窓会の感想などいろいろとお話ができ、初対面ではありましたが同窓会としての親近感を実感しました。先生にはこれまでたびたび福岡県内における諸行事に同窓会会長代理としてご出席いただき大変ありがとうございます。この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

会次第

1. 開会の辞
九州大学歯学部同窓会 副会長 石井 潔
2. 当番校会長挨拶
九州大学歯学部同窓会 会長 高島 昭博
3. 来賓紹介
4. 出席者紹介
5. 来賓挨拶
日本歯科医師会 会長 大久保満男
福岡県歯科医師会 会長 秋山 治夫
参議院議員 石井みどり
福岡市歯科医師会 会長 山本 達郎
九州大学大学院歯学研究院長 赤峰 昭文
6. シンポジウム
「若い歯科医師に今、何を伝えたら良いか」
東京都開業 宮地 建夫

長野県開業 北川原 健
九州大学病院副院長 古谷野 潔

7. 協議
議題(1)次々回当番校選出
(2)その他
8. 次期当番校挨拶
北海道大学同窓会 会長 村井 清彦
9. 閉会の辞
九州大学歯学部同窓会 副会長 中村 典史

平成19年度新設国立大学歯学部 同窓会連絡協議会報告

同窓会副会長 佐藤 定雄

日 時：平成19年10月28日(日)

場 所：博多サンヒルズホテル

当番校：九州大学歯学部同窓会

内 容：

- 1) 講演 「新歯科医師臨床研修制度への対応」
講師
九州大学病院歯科 総合診療科教授
樋口勝則先生

内容

臨床研修制度が発足して2年が過ぎようとしている現在、様々な問題点が顕在化してきた。研修施設側では、基準緩和により不足を補う方向にあるが、協力施設および指導歯科医師数の不足が挙げられる。研修歯科医の技術的指導のほか、さらに心のケアが重要になってきたことは双方共に深刻である。研修歯科医側では、指導歯科医との間に意欲上の差異があるほか、双方が受け取る手当てが不十分であり且つ施設により差があつてこれが不満の源泉となっている。対策としての卒前教育を十分行なうためにその見直しが必要である。

以上種々提案が示されたが、文部科学省と厚生労働省の横の連携と抜本的改善の必要性を痛感させられた。



2) 協議

1. 同窓会における慶弔事項との取り組み（九州大学）；同窓会の福利厚生全般についての取り組みについて（新潟大学）

目新しいものとしては、「高齢者優待会員制度(大阪大学)」、「所得補償制度(九州大学)」、慶弔規約で、「慶事：会員本人の結婚に祝電、弔事：会員本人だけでなく配偶者、会員の1親等にも何らかの対応をしている（大阪大学）」などの報告があったが、その他全般的に新潟大学歯学部は充実していると実感した。同窓会年会費の額に違いがあり、高額な同窓会はそれなりの手厚い対応ができています。

2. 学術オンデマンド配信について(大阪大学)

学術講演をビデオ撮影しこれをインターネットで配信するシステム。質問ができない欠点などが報告された。

3. 口腔保健学科卒業生の歯学部同窓会入会について（広島大学）

口腔保健学科卒業生を歯学部同窓会に加入させない方針とのこと。新潟大学歯学部の加入方針を評価して欲しいと思われた。

3) 次回・次次回当番校について

次回 北海道大学

次次回 九州大学

同窓会セミナー

「進化する歯内療法—明日からの臨床のための体験コース—」に参加して

16期 岡部 孝一

「あまりにも根管治療に労力を費やしてはいないか」

本セミナーに参加した理由はこれにつきます。

彎曲根管に、あまりに時間がかかりすぎてはい

ないか。十分ファイリングしたつもりなのにポイントがアピカルシートまで到達しない時など、根気が途切れてしまいそうになるのは私だけなのだろうか。何とかして精度を落とさずに（できれば精度を上げて）かつ根管治療を省力化できないものだろうか。

さらに、根管洗浄は根尖まで届いているのだろうか、何号まで拡大すればいいのだろうか、根管孔部の三角部をどう削除していくのか、側方加圧で根尖部まで緊密に充填されているのだろうか、などなど、今まで抱き続けてきた疑問の多くは今回のセミナーで氷解し、いくつかはその糸口が見つかりました。

今回実習いたしましたNi-Tiファイルに関しては、すでに導入されておられる先生も多いと思いますが、今回初めて試用してみて自分の日常臨床のシステムが大きく変化するかもしれないという予感を強く感じました。未体験の先生は、一度手にとってみられてもよろしいのではないのでしょうか。

言うまでもございませんが、問題点は、ファイルの破折をどう防いでいくか、不幸にして破折した場合どう対処するか、後はランニングコストの問題ではないかと愚考いたします。拙速ながら購入しましたので、臨床に応用すべく、まずは抜去歯で手になじむまで修練するつもりです。

本セミナーは密度、充実度を鑑みますと、再び開催されますならば是非のご参加をお勧めいたします。蛇足ながら、今回の二万円という参加費は、実習付き、材料費・昼食費込で、本当に恐縮するぐらい格安でした。私事ですが、十数年ぶりに実習室に入り、学生時代を懐かしく思い出しました。

本当に有意義で、我が意を得たりのセミナーでした。末筆ながら興地先生、教室の諸先生、関係の各先生方に心より御礼申し上げます。



同窓会セミナーの様子





2年目を迎えた全学同窓会

歯学部同窓会会長 多和田 孝 雄
全学同窓会副会長

平成15年10月6日(月)、新潟大学本部特別会議室において将来の全学同窓会の設立を目指して新潟大学全学同窓会連絡協議会の結成準備会が開催された。

深澤助雄副学長を大学からのオブザーバーとして迎え、全ての学部同窓会の代表者が出席して、歴史的な第一歩となる会議が開催されたのである。私は当時まだ副会長であったが神田会長の代理として出席した。しかし、会を重ねるにつれ各学部同窓会間の利害の乖離が露見し、中でも全学同窓会の会費問題は本会の設立を流産しかねないほど深刻であった。年が明け大学の法人化が大学にとって如何に重要な事案であるかということに各学部同窓会は目覚め、当年4月1日の新潟大学法人化と同日に全学同窓会連絡協議会は発足した。以降は各学部同窓会屈指の人材の参加を得て全学同窓会は他大学では考えられないほどのスピードで組織や制度を整備し、困難な事業にも果敢に取り組んでいく強力な組織に成長した。ただここまでの充実の陰には長谷川彰学長を始めとした大学執行部役員の本気で積極的なサポートがあったことを永く忘れてはならない。

平成18年4月1日、いよいよ全学同窓会は誕生し、同年には沖縄県支部、佐渡支部も設立された。また、新潟大学カードもこの頃から検討され、翌平成19年の初めに勧誘が開始された。本カードの

導入において歯学部同窓会の佐藤定雄副会長、福島正義理事が中心的役割を果たしたことを歯学部同窓会は誇りに思う。本年9月末現在、会員の家族を含めた全体での加入者総数1,919名中歯学部同窓会からは151名が加入している。私は1,000名に達するまで勧誘の手を緩めないつもりである。また、同時に会員を対象に募金を開始した賛助会費は9月末現在で、全1,343.5口中歯学部同窓会は75口であった。残念ながら物足りない数字である。平成19年7月16日に新潟県中越沖地震が発生した。大学の機敏な対応は十分に予見できたので、歯学部同窓会は同じ週の土曜日(7月21日)開催の全学同窓会理事会で、新潟大学が行う災害復興支援事業を支援する目的で各学部同窓会から支援金を拠出することを提案し、賛同をいただいた。支援金授受の様子は本年10月1日発行の全学同窓会広報誌「雪華」に掲載されている。11月3日(土)にはホテル新潟において講師に新潟大学脳研究所の中田力教授を迎えて第3回となる全学同窓会の講演会が開催された。市民の参加も多く、400名の受講者が真剣に聞き入った。また、その価値のある講演会であった。

2009年新潟大学は60周年を迎えるが、全学同窓会は大学側の記念事業への協力、門もしくは電光掲示板、植樹等の形あるものの寄贈を検討している。

